

教科書採択理由

和歌山大学教育学部附属小学校

教科	種目	発行者略称	理 由
国語	国語	光村	第3学年以上の巻頭には、「〇年生の学習を見渡そう」を掲載し、1年間の学習を見通すことができるようになっている。また、言語活動では、話すこと・聞くこと・話し合うことの3つに系列化している。説明的な文章の学習では、教材が2つあり、初めの教材で単元のねらいをつかみ学習を進め、次の教材で学習したことを活用する構成となっている。他教科に生かすことを意識した箇所もあり、読書活動への意欲を高めるような工夫をしている。
	書写	東書	1ページの情報を精選し、配色や文字の大きさを工夫するなど、児童に見やすく分かりやすい紙面を構成している。また、硬筆・毛筆ともに、発達の段階に応じて、点画・筆使い、字形の整え方などの基礎的な内容を設定し、繰り返し学習できるような配列になっている。「ノートに書こう」では、ノート例を掲載することで、書写で学習したことを他教科に生かすことができるようにしている。
社会	社会	日文	基礎的・基本的な知識や技能を習得し活用できるよう問題解決的な学習を基本とした構成となっている。また、図表や写真等の関係資料を数多く掲載している。大胆限のまとめには「大きくジャンプ」を設定し、発展的な学習に対応できるようにしている。地域の学習では浜口梧陵や南方熊楠を取り上げたり津波ハザードマップでは広川町を取り上げたりしている。
	地図	帝国	世界の諸地域、国内の地方、都市圏等、縮尺をかえ表している。また、高さごとの色分け、陰影表現で見やすく工夫されている。また、歴史学習との関連を図ったり、過去の地震・火山災害の分布図の掲載や防災マップの作成を紹介したり、総合的な学習に生かせるようにしている。
算数	算数	啓林館	単元のつながりを分かりやすく表示したり、既習内容を生かせるようにしている。また、発展的な内容を取り扱ったり、数学との関連を紹介を示したり、生活の場面との関連を図ったりしている。問題解決の過程や考え方の説明の仕方やノートの書き方等、表現力が身につくようにされている。
理科	理科	啓林館	予想→観察・実験→結果→考察と単元の中で一連の過程が分かるように示されている。予想や考察では話し合い活動を設けたり、実験・観察ではノート例を示すなど言語活動の充実を図るようにされている。学習内容を生かしたおもちゃづくりや中学校理科との関連も図られている。
生活	生活	啓林館	2年間の学習を見通し、児童が活動しながら学習を展開し、気づきを深め、話し合い・伝え合い・交流し合いできるようになっている。また、各地の行事や風・ゴム等で動くおもちゃを題材に取り上げ、理科や社会科との関連を図っている。別冊「せいかつ たんけんブック」は、野外での活動の約束や植物や生き物の特徴や栽培・飼育の仕方等が掲載され、学習を深めたり広げたりできる資料となっている。

音楽	音楽	教芸	共通事項を核とした題材構成をし、年間授業時数に配慮した楽曲選択ができるようにしている。また、学年や各領域における学びの深化が系統で期に構成され、学年の積み重ねができるよう工夫している。鑑賞教材を中学校では表現(歌唱)教材として扱い、系統的に配列することで、中学校での学習につながるよう配慮している。地域の伝統芸能を紹介したり、伝統音楽を取り扱ったり、日本語の美しさや季節感を感じる工夫をしたりしている。
図画工作	図画工作	日文	題材を「造形遊び」「絵」「立体」「工作」「鑑賞」の5つに分類し、学習のめあてを「楽しんですること」「考えること」「工夫すること」「見たり感じたりすること」に分け、児童が主題を理解し、表現活動を展開できるよう系統的に配列されている。また、安全面で配慮すべき点を「気をつけよう」を記号化して分かりやすく示している。伝統的な文化遺産・国宝・郷土の民芸品なども取り上げている。
家庭	家庭	東書	学習したことを家庭生活で活用できるようにしている。また、持続可能な社会をめざし、環境を考える視点、防災につながる視点を大切にしている。また、学習のめあてと学習したことを振り返ることを大切に、確実に基礎技能が身につくようにしている。児童が発展的に調べたり、家庭で実践できるような構成にも配慮している。
体育	保健	東書	他学年での学習との系統性、他教科との関連、中学校での学習への発展などつながりを意識した構成となっている。見開きで1単位時間の学習の見通しを持てるように構成し、項の初めには、学習課題を明示し、学んだことをもとに、思考・判断・表現する活動を設定している。また、児童が主体的に学習ができるように、イラストや図を効果的に配置している。